看護学部　看護学科　専門基礎科目・専門科目　カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	全学DP	自立した現代女性にふさわしい教養力と人間性の養成		自己実現のためのコミュニケーション力と社会性の養成		社会的責務を果たすことのできる専門力と判断力の養成		文化の創造的担い手となるための技術力と実践力の養成	
	学科DP	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針・学修到達度	到達度lv4	人間を理解するために必要な人文・社会・自然科学に関する多面的な知識を有し、より良い文化の創造を目指すことができる。	看護学生として看護の対象となる人々の尊厳と権利の擁護に向けた行動をとることができる。	多様な価値観を尊重し、相手の発言や態度・行動を肯定的に受け止めながらコミュニケーションを発展させることができる。	看護師の社会的責務を把握し、自立した社会人にふさわしい責任感を持ってチームに参画・協働することができる。	看護の専門領域の知識を活用して、根拠に基づいた実践をすることができ、常に自己研鑽し続けることができる。	看護をめぐる諸問題について、客観的・論理的に判断をし、自己の判断を常に顧み、責任をもって行動することができる。	対象者の個別性に合わせ正確性・安全性・安楽性・効率性を踏まえた看護技術を常に提供し、その結果を対象の反応から評価できる。	自ら課題を見出すことができ、根拠に基づいた看護実践ができる。
	到達度lv3	人間を理解するために必要な人文・社会・自然科学に関する基礎的な知識を有し、自らの問題として考えることができる。	人間性を涵養していくための自己の課題を発見することにより、自己実現を実践できる。	相手の価値観を認め、自分の思いや意見との相違を確認しながら肯定的で前向きな関係性をとることができる。	保健医療福祉行政チームの一員であることを自覚し、責任をもって他者とスムーズに協働作業を行うことができる。	看護の専門領域の知識を活用して、根拠に基づいて課題解決方法を考えることができる。	看護をめぐる諸問題について、客観的・論理的に判断するとともに、自己の判断を顧みることができる。	対象者の個別性に合わせ、正確性・安全性・安楽性を考慮しながら看護技術を提供し、その結果を対象の反応から評価できる。	自ら課題を見出すことができ、それらの解決に向けて指導を受けながら成果をあげることができる。
	到達度lv2	人間を理解するために必要な人文・社会・自然科学に関する基礎的な知識を有し、問題点を指摘することができる。	自分の存在を理解し、他者の多様な価値観を受け入れることができる。	相手の価値観を認め、感情的にならずに相手から適切な情報を引き出し、自分の思いや意見を伝えることができる。	社会の構成メンバーの一人として、自分の位置づけや役割を述べることができ、他者と協働することができる。	看護の専門領域の知識を活用して、課題を見出すための情報収集ができる。	看護をめぐる諸問題についてデータをもとに客観的に矛盾のない判断ができる。	対象者の個別性に合わせ、安全性・安楽性を考慮しながら看護技術を提供し、その結果を評価できる。	課題に自ら取り組み、指導を受けながら実践し、成果をあげることができる。
	到達度lv1	人間を理解するために必要な人文・社会・自然科学の内容について、自分の知っていることを述べることができる。	人として社会の中の一員として自らを律し、ルールとマナーを守ることができる	相手の話を聴くことができ、その相手の話に対して自分の意見や思いを伝えることができる。	社会の一員として他者と協働することの必要性を述べることができる。	看護の専門領域についての基礎的な知識を有している。	看護をめぐる諸問題について関心を持ち、収集したデータから自分なりの判断ができる。	対象者の個別性を考慮して、原則的な留意事項を遵守した看護技術を提供できる。	課題に自ら取り組む姿勢を持ち、指導を受けながら実践することができる。

	学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
専門基礎科目・健康と医療	1	人体の構造と機能Ⅰ	○	△			◎	△		
	1	人体の構造と機能Ⅱ	○	△			◎	△		
	1	生化学	○	△			◎	○		
	1	感染防御学	○	△			◎	○		
	1	栄養学	○				◎	○		
	1	薬理学	○				◎	○		
	1	病態生理学	○				◎	○		
	1	疾病と治療Ⅰ（内科総論・全身疾患）	○				◎	○		
	2	疾病と治療Ⅱ（外科総論・臓器別疾患）	○				◎	○		
	2	疾病と治療Ⅲ（運動神経感覚器疾患）	○				◎	○		
	2	疾病と治療Ⅳ（母性・小児）	○				◎	○		
	2	疾病と治療Ⅴ（精神）	○	△			◎	○		
	1	医療概論	◎	○			○			
専門基礎科目・健康の支援	1	生涯発達学	○				◎	○	△	
	1	人間関係論		○	◎	○	△		△	
	2	看護関係法規	○				◎	○		
	2	公衆衛生学	○			△	◎	○		
	2	社会福祉学	○				◎	○		
	2	疫学（保健統計Ⅰ）	○			△	◎	○		
	3	疫学（保健統計Ⅱ）	○			△	◎	○		
	1	セクシュアリティ論	○	◎		△	○			
	2	臨床心理学	○		○		◎			△
	2	健康教育学	△				◎	○		
専門科目・看護の基礎	1	看護学概論	○	△	△		◎	○		
	1	看護理論	○				◎	○		△
	1	基礎看護方法Ⅰ（生活行動の援助技術）			△		○	○	◎	△
	2	基礎看護方法Ⅱ（ヘルスアセスメント）					○	○	◎	△
	2	基礎看護方法Ⅲ（診療の援助技術）					○	○	◎	△
	2	看護過程の基礎					○	◎		△
	1	地域ふれあい実習			○	△	◎			
	1	基礎看護学実習Ⅰ			○		○	◎	△	△
	2	基礎看護学実習Ⅱ			△		○	◎	○	△

	学年	学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
専門科目・看護の実践	1	地域・在宅看護学概論	○			△	◎	○		
	2	地域包括ケア概論				△	◎	○		
	3	地域・在宅看護学方法論			△	△	○	◎	○	
	3	地域・在宅看護学実習				△	○	○	△	◎
	2	成人看護学概論	○				◎	△		
	2	成人看護学方法論Ⅰ(急性期)			△		◎	○	△	
	3	成人看護学方法論Ⅱ(慢性期)			△		◎	○	△	
	3	成人看護学実習Ⅰ(急性期)			△		○	△	○	◎
	3	成人看護学実習Ⅱ(慢性期)			△		○	△	○	◎
	1	老年看護学概論				△	◎	○		
	2	老年看護学方法論			△		○	◎	○	
	2	老年看護学実習Ⅰ				△	○	○	○	◎
	3	老年看護学実習Ⅱ				△	○	○	○	◎
	2	小児看護学概論	○	△			◎	○		
	3	小児看護学方法論			△		○	◎	○	
	3	小児看護学実習				△	○	○	○	◎
	2	母性看護学概論	○	△			◎	○		
	3	母性看護学方法論			△		◎	○	○	
	3	母性看護学実習			△	△	◎		○	○
	2	精神看護学概論	○	○			◎	△		
	3	精神看護学方法論		△	△		◎	○	○	
	3	精神看護学実習			○		○	△	△	◎
	3	緩和ケア論					◎	○	△	
	3	リハビリテーション看護論				△	◎	○	△	
	4	外来看護論			△		◎	○		△
	4	救急看護学					◎	○	△	
専門科目・公衆衛生看護	2	公衆衛生看護学概論				△	◎	○		
	2	ヘルスプロモーション活動論					○	◎	△	
	3	保健医療福祉行政論				△	◎	○		
	3	公衆衛生看護活動論Ⅰ(対象別)					○	◎	△	△
	4	公衆衛生看護方法論					△	○	◎	
	3	公衆衛生看護活動論Ⅰ(応用)					△	○	◎	○
	4	公衆衛生看護管理論					△	○	◎	
	4	公衆衛生看護学実習				△	△	○	○	◎
専門科目・看護の統合	1	医療安全学			△		◎	○		
	3	多職種連携論			○	○	△	◎		
	3	看護研究Ⅰ	△				◎	○		
	4	看護研究Ⅱ	△				◎	○		
	4	看護管理学				△	◎	○		
	4	災害看護学			△		◎	○		
	4	総合看護演習		△	○		◎	○		
	4	看護学統合実習			△		○	△	△	◎
	3	家族看護学				△	◎	△		
	4	国際看護学	△				◎	○		
	4	看護教育学	○	○			◎			